

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	保育原理	
科目基礎情報					
開設学科	こども学科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	仁科伍浩	実務経験の有無・職種	有・小学校教諭		
学習目的					
現代の子どもを取り巻く状況は日々複雑化している。こうした変化の中で保育者は、その状況に沿いつつ信念を持って保育を行わなければならない。この科目を学習することで、学生は、平成30年度の新しい幼稚園教育要領・保育所保育指針並びに幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに現行の保育制度について知り、さらに配布レジュメをもとに保育の理念・保育思想の歴史的変遷・保育内容や方法についての基本的な知識を身につける。加えて、具体的な事例を用いて、現在の保育における課題とその解決方法を考察する。この科目は、乳幼児保育、保育内容総論と関連している。					
到達目標					
現行の保育制度について理解し、正しく説明できること。保育の理念及び基本的な知識を理解し、正しく説明できること。保育の現状と課題について考察し、その解決方法をグループワークに参加して述べるができること。子どもの成長・発達に欠かせないものとは何か、保育における遊びと学びの意味を習得すること。子どもを理解することと保育の営みについて調べ、育てることと大人の役割を知ること。保育者の専門性を学ぶための基礎を習得することを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	映像や事例を通して、個人ワークやグループワークをとりいれる。「子ども理解」を中心に保育の基本と根本概念を事例を用いながら授業を進める。保育の実践を支える理論的な基礎を構築するために、子どもを理解する大人（保育者・保護者）が人間をどう理解して、育てる営みへつなげていくのかを考えあう。特に保育者の専門性を深めるための基礎概念を理解し、学び続ける保育者像を各自に構築し、現代に求められる「保育」の意味や役割を考察する。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。保育者の役割の一つに"子どもの模範となる"ことがあることから、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	20%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	「保育」とは何か	「保育」のイメージを明確にする			
2回	保育の基盤としての子ども観	子ども観と保育の内容・方法について理解する			
3回	子ども理解から出発する保育	子どもの発達を捉える「まなざし」について理解する			
4回	子どもが育つ環境の理解	保育場面における環境構成について理解する			
5回	保育内容・方法の原理	子どものための保育内容と方法について理解する			
6回	保育の計画と実践の原理	保育の計画にはどのようなものがあるか立案してみる			
7回	保育における健康・安全の原理	子どもの健康支援・食育の実際について理解する			
8回	多様な子どもと共に育つ保育	多様性が求められる時代の保育について理解する			
9回	保育の歴史に何を学ぶか	日本における保育制度の移り変わりや思想家たちの考えを理解する			
10回	保育者に求められるもの	子どもと共に学ぶ保育者となるために何が必要か考察する			
11回	現代の子育てと子育て支援	子育て支援が必要とされる背景と施策を理解する			
12回	保育の現状と課題	保育の質の維持と向上のために何が必要か理解する			
13回	「保育原理」の「原理」を問う①	あらためて「保育」とは何かを考察し、理解する			
14回	「保育原理」の「原理」を問う②	倉橋惣三、ピアジェ、ヴィゴツキーから現在まで、自分自身の保育観を考察する			
15回	まとめ	全体のまとめ			